

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

政策名	交流・環境	28年度事業・施策評価結果			責任者	港営部 誘致推進課長
施策名	うるおいと魅力のある港湾空間の形成	成果	コスト			
事務事業名	クルーズ船誘致の推進	継続	拡大	拡大	連絡先	052-654-7835
目的	対象(誰・何を)	クルーズ船			連携課	企画担当、海務課、港湾管理事務所
	意図(どういう状態にしたいか)	名古屋港への寄港増加に向けた取組を進め、交流空間としての魅力向上を図ります。			事業期間	平成6年度～継続
概要	クルーズ船の誘致を進めるとともに、乗船客の印象に残る歓送迎行事や観光案内等によるおもてなしのほか、船内見学会の実施によりクルーズ船への関心拡大を図ります。			根拠法令等		
29年度の実施予定	関係行政機関、団体、企業で構成する「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」を通じてクルーズ船誘致に向けた取組を進めます。また、クルーズ船が入港する際には、歓送迎行事、観光案内等を実施するとともに、船内見学会の実施について運航会社に協力を要請していきます。			実施義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
				関連シート		

2 DO(実施)

29年度に実施した内容・結果	関係行政機関、団体、企業で構成する「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」での活動を中心に、国内外クルーズ船会社等への誘致活動を実施しました。また、クルーズ船寄港時には、歓送迎行事、観光案内等を実施するとともに、クルーズへの関心を高めるため、運航会社協力のもと船内見学会を実施しました。中国(上海)で開催されたクルーズ見本市(Seatrade Cruise Asia Pacific Congress2017)へ出展するとともに上海に支店を置くクルーズ船社を訪問し、名古屋港及び背後圏の観光資源の紹介及び意見交換を行いました。また、クルーズ船受入能力の向上を図るため、ガーデンふ頭3号岸壁改良実施設計を実施しました。また、同会議においてクルーズ産業の動向や名古屋港の置かれている状況等を確認して課題を整理し、今後の対応について名古屋港クルーズ船誘致に向けた行動計画として取りまとめを行いました。					
コスト	単位	27年度	28年度	29年度	平均	備考(費用の増減理由等)
事業費	千円	104,485	51,272	28,347	61,368	本事業費は、一般会計及び名古屋港利用促進協議会から支出されるため、以下の計算式により算出しています。 事業費総計額＝一般会計の支出分＋(同協議会における支出×本組合の負担割合)
人件費	千円	10,524	16,126	17,921	14,857	
合計	千円	115,009	67,398	46,268	76,225	

3 CHECK(検証)

指標名	27年度	28年度	29年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
クルーズ船入港隻数(隻)	目標	40	40	40	40	過去5年間(平成21～25年)のクルーズ船入港隻数の最高値を目標値としました。	
	実績	34	39	35			
(単年度管理型)	事業進捗状況(29年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
クルーズ船見学会の開催数(件)	目標	3	3	3	3	見学会の実績が多い日本船籍のクルーズ船数を目標値として設定しました。	クルーズ船運航会社の協力
	実績	4	4	5			
(単年度管理型)	事業進捗状況(29年度)			目標値を上回る 目標値をやや下回る	目標値どおり 目標値を下回る		
目標の達成度に対する評価(外部要因等を踏まえた)	クルーズ船の入港隻数については、目標値に届きませんでしたが、初めてインターポーティングの寄港による外国籍クルーズ船5隻をガーデンふ頭において受け入れました。引き続き、目標達成に向け取り組んでいきます。見学会の指標は目標を達成しており、地域のクルーズ需要掘り起こしやクルーズ船への関心拡大につなげることができました。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性	本組合が関与し、どうしてもやらなければならない事業か?	○ 見学会の実施にはクルーズ船運航会社の協力が不可欠ですが、本組合が関与することで事業の公平性が担保されると考えます。見学会の定員に対しほぼ応募者数が上回っており、一般県市民の関心に応える事業となつていきます。					
	事業規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○					
有効性	事務事業は、施策達成に貢献するか?	○ クルーズ船入港時の見学者や見学会の応募状況から、華やかなクルーズ船の寄港は上位施策である「うるおいと魅力のある港湾空間の形成」に寄与していると考えます。					
	期待どおりの成果が得られているか?	△ 初めてインターポーティング寄港による外国籍のクルーズ船をガーデンふ頭で5隻受け入れましたが、クルーズ船の配船地域の変更等により目標とする入港隻数には5隻届きませんでした。					
効率性	最小のコストとなっているか?	○ 実施に当たっては直接的な支出を抑え、クルーズ船運航会社の協力を得ながら行っています。					

4 ACTION(取組)

施策評価結果	30年度以降の方向性		判断理由
	成果	コスト	
継続	拡大	拡大	「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」を通じて港にぎわいを創出すべくクルーズ船誘致を進める必要があるため。 【重点化】
資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。			
課題			30年度以降の取組
クルーズ船の寄港誘致への取組は、港湾管理者のみならず、関係機関との協力・連携が必要です。また、地域のクルーズ需要掘り起こしは、継続的な寄港につながるため、クルーズ船運航会社の協力を得て実施していく必要があります。また、インターポーティングによる寄港が金城ふ頭においても始まることから、多数の乗船者及び下船者が見込まれており、関係機関等と連携したスムーズな対応が求められています。			「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」を通じて関係機関との連携を強化しつつ、引き続き、県市民のクルーズ船への親しみを深め、関心を高めるとともに、港のにぎわいを創出すべく、行動計画に基づきクルーズ船誘致に取り組みます。